

学 会 録 事

○持ち回り評議員会報告

第2回持ち回り評議員会を平成13年11月に開催し、以下の4議案が審議され、提案通り了承された。

議案1：平成14年度日本藻類学会の運営方法について

本学会の運営に関する基本案件はその年度の大会時(3月末)に開催する総会で承認を受け運営してきた。しかし平成14年度は7月のAlgae2002(第26回日本藻類学会大会、日本藻類学会50周年記念行事、第3回APPF合同会議)まで総会を開催することができないので、それまでの期間、会計・編集・庶務・会員管理関係の基本的な事項はとりあえず、平成14年3月までに開催する第3回持ち回り評議員会で仮承認していただき、平成14年7月開催の総会で改めて審議・承認いただくという運営方法をとること提案し、了承された。

議案2：ブラックウエル社との契約更新について

同社との間の契約更新は総会の承認を受けて行っている。議案1と同様の理由で、例年どおり契約更新の手続きを編集委員会と評議員会の審議、総会の承認を受ける前に契約することを提案し、了承された。

議案3：Algae2002のプロシーディング発行について

第2回APPF(香港)からプロシーディングが刊行された経緯から、Algae2002においてもプロシーディングの発行に向け、APPA Executive Committee 委員長川井浩史氏を中心に、APPA 会長I.K.Lee, Algae2002 準備委員長井上勲、日本藻類学会会長原慶明、英文誌編集委員長本村泰三、和文誌編集委員長田中次郎の各氏と検討を重ね、以下のような提案をし、了承された。

- 1) プロシーディングは日本藻類学会の和文誌「藻類」の特別号とし、英文で発行する。
- 2) 編集・印刷は現行和文誌の方法に従い、版下(印刷用フィルム出力)まで特別に組織したプロシーディング編集部(後述)が行うDTPとする。
- 3) 論文が掲載された場合、投稿者から一定額(1万円程度)の投稿・掲載料を徴収する。
- 4) 論文には原則として頁制限(4頁程度)を設け、それを超えた場合には超過頁負担金(実費+ α)を徴収する。なお、論文著者には1論文あたり1冊のプロシーディングを進呈する。
- 5) 編集体制は和文誌編集委員長が発行に対する最終責任を負うが、編集実務はプロシーディング(P)編集部(編集長1名、副編集長1名、編集委員数名)が行う。DTP作業も和文誌編集長等の指導を仰ぐが、この編集部が行う。
- 6) 編集は和文誌の原著論文同様の審査を行い、掲載の可否はP編集長が行う。
- 7) プロシーディングの発行は2003年春の藻類学会大会

(三重)までに行う。

8) プロシーディングは藻類学会員、Algae2002参加者等に予約販売する他、和文誌バックナンバーとして販売する。なお、了承事項とは別に議論の中で、プロシーディングの発行によって次のような波及効果が考えられるのではないかとの意見があった。(1)プロシーディングへの論文の掲載は具体的な業績になることから、参加者の本会議発表に対する意欲の向上が期待できる。(2)プロシーディング編集部を若手研究者で組織してもらうことで、学会活動への参加・貢献を促し、学会組織の世代交代に備えることができる。

議案4：「日本分類学会連合(仮称)」の設立準備協力及び加盟について

これまで植物分類学連合(9学会)の活動については学会録事を通じて逐次会員諸氏にご報告してきたが、そこを通じてさらに動物分類学連合(12学会)と連携し活動することで、分類学の振興をはかる連合組織の設立準備(これまで本学会の事務局および会員の川井浩史氏(神戸大)が窓口となり設立準備委員会と折衝・協力してきた。)が整い、この度、設立準備委員会から正式に加盟の呼びかけがあった。審議の結果、加盟の意思表示をすることが了承された。

○「日本分類学会連合」設立総会及び設立記念シンポジウム

平成14年1月12・13日、国立博物館分館にて表記の総会及びシンポジウムが行われた。同連合に加盟を表明している本学会は設立総会に会長及び設立準備委員として昨年6月からボランティアで尽力くださった会員の川井浩史氏(神戸大)が参加した。

シンポジウムに先立ち連合に正式に加盟表明をした19学会(代表2名)、それぞれの学会の総会決議が得られ次第加盟する3学会の代表を含めたオブザーバーおよび設立準備委員によって総会が執り行われた。各学会の紹介のあと、準備委員会から提案された会則、執行部体制が審議了承され、連合が正規に発足した。しかし、「日本生物分類学会連合」のほうに誤解や間違いが少ないのではないかとこのことで、会の名称が議論となったが、結論は得られず、新執行部が後日決定することになった。当面の連合の活動はニューズレターの発行、会員名簿の作成、ホームページの開設(各学会の紹介を含めた)、シンポジウム・ワークショップ、講習会等の開催、国際会議等への協力、分類同定依頼の受付窓口の開設などが示された。これらの運営資金は動物分類学連合から引き継がれた資産で賄い、当面加盟学会へ分担金の徴収は行わないことが決まった。

シンポジウムは総会后、文部科学省(宮島和男氏)、環境省(黒田大三郎氏)から連合に対する期待と対応について、琵琶湖博物館館長(川那部浩哉氏)、日本動物学会(八杉貞夫氏)、日本植物学会(駒嶺穆氏)、自然史学会連合(森脇和郎氏)から連合及び分類学に対する期待と科学分野の位置付けについ

て、特別講演では荒俣宏氏から社会から期待される分類学について、講演が行われた。

翌日、21世紀の分類学(分類学連合を含め)のあり方について、藤井伸二氏(大阪市立自然史博物館)、上島励氏(東京大・院・理学系)、伊藤希(筑波大・遺伝子実験セ)、矢原徹一(九大・院・理学)、戸田正憲(北大・低温研)、佐々木毅智(東大・総合博物館)が各自の活躍する斯界を代表して講演が行われた。

新執行部は次のとおりである。

連合代表：加藤雅啓(東大)、連合副代表：松浦啓一(科博)

幹事庶務：友国雅章(科博)、会計：伊藤元巳(東大)、Web：朝川毅守(千葉大) ニュースレター：高久元(北大)

加盟学会：日本貝類学会、日本魚類学会、日本原生動物学会、日本蜘蛛学会、日本動物分類学会、日本爬虫両棲類学会、日本哺乳類学会、日本線虫学会、日本鞘翅学会、日本シダ学会、地衣類研究会、日本蘚苔類学会、日本藻類学会、日本甲殻類学会、日本古生物学会、種生物学会、日本生物地理学会、日本土壤動物学会。

加盟予定学会：日本植物分類学会、日本ダニ学会、日本進化学会

新刊紹介

石川 依久子著「人も環境も藻類から」

(ポピュラーサイエンス240)

裳華房 2002年2月発行

四六判 210頁 (カラー口絵2頁)

本体価格 1600円+税

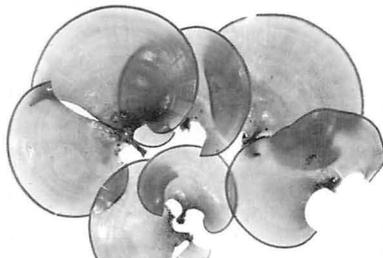
著者の石川依久子先生は、「藻類」を友として半世紀、緑藻類の細胞生物学的研究を行い、日本藻類学会の会長も歴任されました。先生は、普段の柔和な表情と物腰とは裏腹に、他者には計り知れない藻に対する激しい愛情を抱いておられることの一部がこの本から窺われます。愛する藻が、地球、生物、人類に対して絶大な貢献をし、今また行きすぎた機械文明がもたらした地球の危機、人類破滅の危機の回避に藻の力が欠かせないことを世の人々に知ってもらうために、啓蒙活動が先ずもって必要との考えから、お書になった本です。一般に、市民の藻に対する認識は食材以外は大変希薄であり、藻の有用性が認識される場が少ないように思えます。このことを打開するために、著者は専門書的な記述を避け、短編読み切り型の文章形式を採用し、先ず読まれる工夫をしています。より多くの人に、特に、国や自治体の環境策定を担う

人々、そしてまたこれから社会を担う若い世代の人々に、地球生物の生存は藻によって支えられていることを簡潔に知ってもらうことを目標に書かれています。これからの理科系科目の新カリキュラムでは、藻は扱われないことから、地球の救世主を知らない世代が育っていく可能性が高まりつつあります。一方、社会に出てからの自己教育がますます必須になる時代になり、藻に関する社会教本といったものが是非必要になると考えられることから、この本はそうした要請に応える先駆となるかもしれません。本文は、1.エネルギー編、2.地球生命編、3.地球生態編、4.海という条件編、5.顕微鏡で見える世界編、6.生殖の原点編、7.悪者にされた藻類編、8.藻類は地球人類を救えるか、の8章からなり、各章は4—8つのエッセイ風に書かれた文で構成されています。基礎知識や専門知識がなくても、藻と現代文明の関係、藻の知られざる威力がわかるように、また章間に連続性をもたせず、いつでも、どこでも、余暇を利用して気軽に読めるように構成されている。啓蒙が先ずもってこの本の眼目と解すると、Q&A形式をとれば、より効果的だったかもしれないと感じました。いずれにせよ、学術研究の対象としてのみ藻を見がちなわれわれが、研究からはなれた世界で藻を一般の人に語るときの参考になるので、是非読んで周囲の人に勧めてもらいたいと思います。

(堀 輝三)

編集後記

雑誌は生き物のように変わる。本誌は1953年創刊時A5版であった。1970年にB5版へ大判化した。1995年には和文誌として独立し、和文誌編集委員会によるDT



P印刷となった。さらに、今年2002年からA4変形版へ大判化した。これで英文誌と同じ大きさになり、整理しやすくなったのではないと思う。また活字も前より1ポイント大きくして9ポイントとし、読みやすくなった。大判になったために1ページの活字の量は約20%増加した。その分頁数は20%減ることになる。表紙の写真は「藻類」の先々々代、先々代、先代である(JT)。

藻類も時を刻んで50年、この記念すべき会誌を編集できて光栄です。紙面も新たに、ウミウチワのように末広がり、益々繁栄することを願っております(TN)。